

# 日中文化振興事業団5月定例講座講演:建築 (今と昔) ハウスクリーニング 心地よい 生活を届ける家屋洗い・建築クリーニン グ・コーティング技術の現状と課題

講師 高木優司次 (日本家屋洗い特級技士)  
増田和俊 (株式会社タブリス代表)

日時: 2025-05-24 13:30

場所: 大阪駅前第二ビル5階大阪生涯学習センター

参加者: 日中文化振興事業団会員

背景

本講座は、家屋洗いや建築クリーニング、コーティング技術の現状や課題、業界の変遷、職人技術の継承、安全な薬剤使用、伝統建築の保護、コーティング剤の特許や海外展開などについて、現場経験者や関係者が意見交換を行ったものです。昭和時代から現代に至るまでの技術や材料の変化、災害時の対応、若手育成、コーティング技術の特徴や安全性、今後の展望などが幅広く議論されました。

## Q&A

### 1. 家屋洗いの技術や修行方法はどのようなものだったか？

- 家屋洗いの技術は、師匠の洗い方を見て体で覚えるものであり、口頭で教わるものではなかった。12指も体を慣らして家を洗うという修行を経て、二度使える技術を身につけた。

### 2. 昭和時代の印鑑屋での修行や給料事情は？

- 17歳の時に印鑑屋で修行し、月給は1000円だった。3人ほどでおじさんのところで習いながら働き、年末には年賀状の印刷も行っていたが、給料は変わらなかった。

### 3. 日本家屋の材料や建築様式の変化について

- 昭和時代は日本家屋の古い建物が多く、木材（ヒノキ、杉、松など）を使っていたが、淡路震災以降、積水ハウスや大和ハウスなどの軽い屋根の住宅が増えた。伝統的な和室や職人の関わりも減少し、壁や天井もクロス貼りが主流となった。

### 4. 家屋洗いで使用する薬剤や道具について

- ・苛性ソーダやリン酸（ロンガリ）などの薬剤を使い、汚れや材質に合わせて調合していた。トイレや箸、天井なども洗浄対象で、和式トイレの減少や生活様式の変化も指摘された。道具としては、笹原（8分竹）の皮を剥いて作る特別な道具を使い、1年以上かけて作成した経験も語られた。

## 5. 地震（特に淡路震災）による建築・生活様式の変化

- ・淡路震災後、建物の屋根が軽量化され、積水ハウスや大和ハウスの住宅が残った。地震時には芦屋や三ノ宮まで移動し、現場での復旧作業に従事した。生活様式や建築様式の大きな転換点となった。

## 6. 職人の育成や仕事の厳しさについて

- ・親方や先輩から厳しく仕込まれ、責任感を持って仕事をするのが重要とされた。道具作りや現場での経験を通じて技術を身につけた。

## 7. 日本家屋や伝統建築の良さ・特徴について

- ・日本の建物は四季に通じており、天然素材や伝統的な工法が活かされている。天井や壁、床なども自然素材で作られており、現代の建築とは異なる良さがある。

## 8. フッ化水素や塩酸などの薬剤の使用方法や危険性について

- ・フッ化水素はトイレのカリカリ汚れなど、一般家庭では落とせない汚れを除去するのに有効だが、非常に強力な危険な薬剤である。容器も10年以上経つと劣化し、車内で漏れると塗装が溶けるなどの事故が起こる。塩酸も使用可能だが、取り扱いには十分注意が必要。
- ・薬剤が強すぎると、頭皮や素材を傷つけることがあるため、状態を見て適切に使う必要がある。

## 9. ハウスクリーニングやアライア（洗い屋）の歴史と現状、業界の変化について

- ・昭和50年代のバブル期にはアライアの仕事が多く、機械化や新しい清掃道具（噴霧器、モップ、ガラス用ワイパーなど）が導入されたが、伝統的な方法も重視されていた。
- ・現在は大手や若手に仕事を追い抜かれているが、材料や現場での工夫、命を大切に作る姿勢が重要とされている。
- ・アライアは現場での養生や撤去など、細かい作業工程を守っていた。

## 10. 建築材料や工法の変遷、現場での作業方法について

- ・アフリカ産のビビン材など高価な材料を使った敷居台の話や、天井板の洗い方、現場での組み立て作業の流れなどが語られた。
- ・昔はカンナやノミを使っていたが、今は設計会社が現場に材料を持ち込み、組み立てる方式が主流になっている。

## 11. 災害時（地震など）の現場対応や被害状況について

- 地震の際には消防署や警察も手が回らず、現場での対応が大変だった。被害者の救助や現場の混乱について具体的な体験談が語られた。

## 12. 健康や高齢化、若手への期待について

- 自身の健康問題（秘蔵破裂や手の怪我など）や高齢化による作業の難しさ、若い世代への期待や勉強の重要性が述べられた。
- 若い人はしっかり勉強し、親のルートを大切にしながら頑張ってもらいたいというメッセージがあった。

## 13. コーティング技術（コヤフロン）の特徴やメリットは何か？

- コーティング技術はフッ素系樹脂を使用し、清掃とは逆に物を保護し美観を長期間維持できる。コスト削減にもつながる。定期的なコーティングでさらに強度が増し、汚れがつきにくくなる。安全面でも安心できる技術である。

## 14. コーティングの費用はいくらか？

- 費用については参加表を後ほど渡す旨を回答。具体的な金額は会議内で提示なし。

## 15. コーティングはどのくらいの期間持続するのか？

- 一度のコーティングで半年から一年持続する。定期的に年2回程度施工することで強度が増し、長期間美観を保てる。

## 16. 浴室のガラスコーティングをすると曇らなくなるのか？

- 曇りにくくなり、汚れもつきにくくなる。ただし半永久的ではなく、定期的なメンテナンスが必要。

## 17. コーティング施工前に必要な作業は？

- 施工前には必ず洗浄が必要。汚れたままではコーティングできない。

## 18. 車体のコーティングとコヤフロンの違いは？

- 車体コーティングは一度施工すれば数年（八年から十九年）持続するが、コヤフロンは定期的な施工で強度が増す。どちらもフッ素系だが、コヤフロンは繰り返し施工することでより汚れがつきにくくなる。

## 19. カブリスという社名の由来は？

- 一つのことにとらわれず、あらゆる角度からお客様一人一人に適切な対応を選択し、自由に仕事をするという意味。

## 20. コヤフロンの特許や技術の詳細は？

- ・ コヤフロンは特許取得済みで、常温で液体として作れるように開発された。小谷野氏から特許権を譲与されている。

## 21. コヤフロンの材料は個人で入手できるか？

- ・ 材料は小谷野氏からの流通のみで、市販はされていない。個人での入手は不可。

## 22. 施工方法は個人でできるか？

- ・ 専門業者による施工が必要。吹き付けて塗り込み、ホットガンで熱処理を施す。

## 23. 中国など海外展開の可能性は？

- ・ 将来的には中国（西安など）での展開も視野に入れている。文化財などでの活用が期待できる。中国企業とのマッチングの話も今後進める予定。

## 24. コーティング技術の安全性や過去の事故例について

- ・ 過去の苛性ソーダによる事故の話があり、現在は安全性の高い技術が求められている。コヤフロンは安全性にも配慮されている。

## 25. 大阪市の小学校理科教材としての採用実績について

- ・ コヤフロンは大阪市の小学校理科教材として採用された実績がある。KD版ニュースとしても紹介された。

## 26. 指紋がつきにくいコーティングの効果について

- ・ ガラスなどにコーティングすると指紋がつきにくくなる。公共施設や金庫などでの利用も考えられる。

## 27. ナンバープレート盗難時の警察対応について

- ・ 2025年1月に車のナンバープレートが盗まれ、警察が指紋採取などの対応をしたが、まだ発見されていない。

## 28. コヤフロンなどの新しいコーティング剤は、古い木材や仏道などの修復・保護にどのように活用できるか？ 今後の用途や可能性は？

- ・ コヤフロンは古いものにもどんどん使われており、今後も用途が広がる可能性がある。
- ・ 従来の磨いてきれいにする機能から、塗って直す時代になってきている。
- ・ 木造のものにも使用可能であり、液体コーティング剤を塗り込むだけで良い。

- ・用途は多岐にわたり、木材の床などにも使えるが、床の場合は滑りやすくなるため推奨できない。

## 29. 木材の床にコーティング剤を使用した場合の安全性や注意点は？

- ・床に塗るとスケートリンクのように滑りやすくなり、特に靴下や裸足で歩く場合は危険。
- ・ペット（犬や猫）がいる場合も滑りやすくなるため推奨できない。
- ・靴で歩く場合は問題ないが、家庭内では注意が必要。

## 30. 奈良の大仏など大規模な木造建築物へのコーティング剤の適用について、現状や課題は？

- ・奈良の大仏では年1回大掃除を行っているが、パフォーマンス的な意味合いが強く、実効性は不明。
- ・大仏のような大きな面積の場合、現地の状況を見てからコーティング方法（埋めてから塗るか、そのまま塗るか）を判断する必要がある。

## 31. 木材のガラス化や防火性能向上のための新技術（例：岡山の図書館や小学校での施工）について

- ・岡山の住宅メーカーが木材をガラス化し、防火性能を高めて大型建物に使用している事例がある。
- ・外装材としてむき出しで使用する場合、燃えにくいガラス表面加工が有効であり、実験では3時間燃えないことが確認されている。
- ・この技術もフロン系（フッ素系）である可能性が高い。

## 作業項目

[ ] 松田社長と今後も連携し、清掃・クリーニング業務や業界の知見を共有し合う。若手への技術継承や現場での工夫を続ける。－[松田社長][高木雄二]

[ ] 中国企業とのマッチングや海外展開の話を今後進める。－[増田和俊]

[ ] 参加者にコーティング費用の参加表を後日渡す。－[増田和俊]

[ ] 大規模木造建築物（例：奈良の大仏）へのコーティング剤適用については、現地の状況を確認し、埋めてから塗るか、そのまま塗るかを判断する。

### AI提案

ご記録には、家屋洗い・建築クリーニング・コーティング・木材保護技術などの専門的な情報が含まれています。AIは、これらの分野に関する学びや課題解決に役立つ以下のリソースを見つけました。

#### 1. 伝統建築洗い技術・職人育成:

[https://www.tatemonomeguri.com/column/column\\_07.html](https://www.tatemonomeguri.com/column/column_07.html)

2. 建築クリーニング業界の安全な薬剤使用・リスク管理:

<https://www.jcsa.or.jp/anzen/>

3. コーティング技術の導入・特許・海外展開: <https://www.japan-coating.jp/>

4. 木材保護・文化財修復の最新技術:

<https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/hozon/>

5. 建築業界の高齢化・技術継承: [https://www.kensetsu-](https://www.kensetsu-plaza.com/kiji/post/202202-kenchiku-jinzai)

[plaza.com/kiji/post/202202-kenchiku-jinzai](https://www.kensetsu-plaza.com/kiji/post/202202-kenchiku-jinzai)

事例・業界慣行:

建築クリーニングや伝統建築の保存分野では、職人技術の体系的な継承や、薬剤・道具の安全な使用マニュアルの整備が進められています。コーティングや木材保護では、素材ごとの適切な施工方法や安全性評価、特許取得・海外展開のための情報共有が重要視されています。また、業界全体で高齢化対策や若手育成、災害時の安全確保なども共通課題となっています。